

親、兄弟など周りの人と「顔」や「目」を見つめて、言葉を交わすことが脳機能の発達に、大きく影響すると想定されている

【これまでの研究から分かること】

(ア)脳には、「顔」だけによく反応する神経細胞が集まる領域^(※)が存在する。

※大脳皮質側頭葉や扁桃体と呼ばれる領域

・コミュニケーションには相手の「顔」に表れる情動^(※)を察知することが大切であるが、高度情報化の進展は、その機会を減らす傾向にある。

(※) 表情や行動に表れる感情

・子どもがゲームやテレビ等を一人で見る機会を減らす。見る場合は家族一緒に見る。また、家族で顔を合わせて食事をする機会を増やすことが重要である。



(イ)脳機能の健全な発達には、乳幼児期に偏りのない豊富な刺激を受けることが重要である。

・多様な自然環境で遊ぶ、近所の人たちと顔を合わせ、言葉を交わすという自然や人との交流、刺激は大事である。

・地域で子どもが遊べる自然環境豊かな空き地や遊園地を残すこと、歩行者天国のような車がない地域や時間帯を放課後に設けること、放課後の子ども会活動を活発化することなどは、子どもの脳の発達に良い刺激を与えると思われる。



脳機能の発達には、家族や自然との 様々な接触の機会が重要

津本

忠治

(理化学研究所脳科学総合研究センター)
ユニットリーダー

